

発行日:2025年1月



SVPインサイトVol.41

セルロースナノファイバー

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2023年3月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。

ANNIVERSARY
50th
SVP JAPAN

I. 市場の定義

脱炭素社会の実現に貢献する新素材として、セルロースナノファイバー（以下、CNF）が注目されている。CNFは、木を構成する木質繊維であるパルプを、ナノレベルの繊維径まで解繊することによって作られる素材である。植物由来のカーボンニュートラルな素材でありながら、その特性は、軽量・高強度、ガスバリア性、水分散性の高さなど多岐にわたり、日用品から建材、自動車部品まで幅広い用途に対応可能である。またCNFは、日本が豊富に持つ森林資源の活用という点でも注目されている。本レポートでは、CNFを含むスラリーや粉末、複合樹脂など、原料として販売される製品全般を調査対象としている。これらは食品や化粧品向け機能性添加物、樹脂混合用途、また柑橘由来の製品として多様化している現状がある。

II. 市場動向

日本はCNFの研究開発で世界をリードしており、2014年には次世代成長産業として位置づけられた。その後、政府支援や産官学連携による製造技術・用途開発が進展している。主な用途は水系と複合材料に分類され、水系用途ではボールペンインクや消臭紙おむつ、卓球ラケット、和菓子などに採用されている。

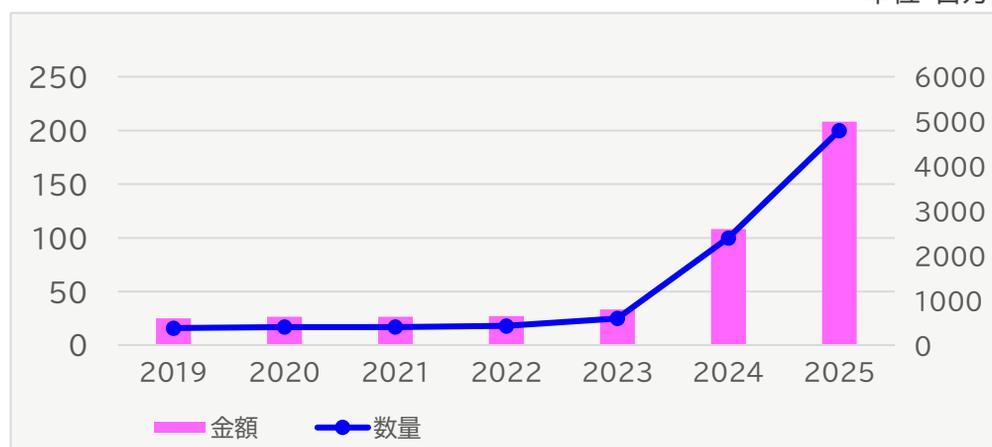
一方、複合材料は、自動車部品や家電、建材向けとして金属や石油由来プラスチックを代替する可能性を持つが、現時点ではコストや技術課題が普及を阻害している。現在、水系用途が市場の主流である一方、主要企業は複合材料の開発競争を加速させており、2025年以降には量産化と市場拡大が期待されている。また、環境省の報告によれば、2030年以降には世界で数兆円規模の市場に成長する可能性が指摘されている。

III. 市場規模・予測

2022年のCNF市場規模は、乾燥重量ベースで18トン、約6億円であった。現状では水系用途が市場の大部分を占めているが、複合材料の技術課題が解決されれば需要が急速に拡大すると見込まれている。2025年には市場規模が50億円に達し、複合樹脂用途が主流となると予測される。さらに2030年以降には、輸送機器や建材、家電といった分野での量産化が進み、本格的な市場拡大期に突入する見込みである。環境省のロードマップにおいても、将来的な大規模市場形成が期待されている。

CNF国内市場規模

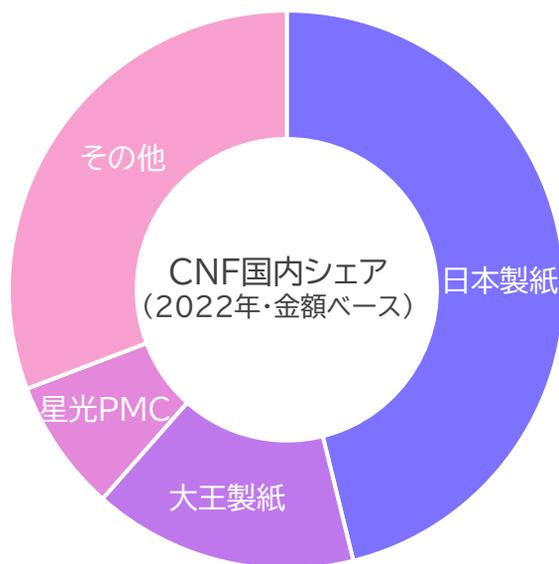
単位：百万円



SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

日本製紙が市場をリードしており、大王製紙や星光PMCがそれに続いている。日本製紙はCNFを自社製品に採用するほか、大学や企業と共同開発を進めている。星光PMCは、複合樹脂分野で唯一アシックスシューズに採用されるなど、市場の成長をけん引している。他の参入企業は、産業機械メーカーが挙げられる。約20社がCNFの開発をしているが、実際の採用は少なく、各社のシェアはわずかである。



※SVPジャパン調べ



V. 参入企業の動向

主要企業では、日本製紙が産業全般向けのCNFスラリーや食品・化粧品向けを展開しており、複合樹脂の開発も進めている。大王製紙は省エネ製法によるコスト競争力を強みに、トイレクリーナーや卓球ラケット、バス用フロントバンパーの開発で成果を上げている。星光PMCは、「STARCEL」の製品名でCNF複合樹脂を販売し、製造コストの大幅な低減を可能にし、スポーツシューズや自動車部品にも使用されている。他にも王子ホールディングス、製紙メーカーのレンゴー、化学メーカーの第一工業製薬などが独自の技術や製品化で市場参入を図っている。これらの企業は自動車部品や建材、食品など多岐にわたる分野で用途開発を進め、長期的な市場拡大を目指している。

VI. 業界構造

CNF業界は製紙メーカーを中心に構成されており、化学メーカーや産業機械メーカーも参入している。現在は実用化初期段階にあり、メーカーはユーザー企業にサンプル提供を通じて採用の拡大を図っている。主要ユーザー業界としては、ゴム製品、自動車、建設、電機、食品・化粧品などが挙げられる。これらの分野で用途の共同開発や実証実験が行われており、今後の市場拡大が期待されている。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動



変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。
TEL : 03-3249-0771

